

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
1	adaptative equipment	競技用補装具	アスリートの特殊なニーズに合わせて作られた、競技への参加を容易にし、成果を挙げるために競技会においてアスリートが使用する器具や装置。
2	alignment	アライメント	配列、線列をさす。例えば、骨アライメントとは骨の形態、骨格の形のことをさす。
3	athlete	アスリート、競技者、選手	「アスリート」という言葉はエリートレベルの競技者を想起させる場合もあるが、IPCが使用する文脈の中では、すべてのレベルのスポーツを行う人のことを「athlete:アスリート」と称している。なお、「競技者」も「アスリート」と同様にすべてのレベルのスポーツを行う人のことを称し、特定の大会に選出された競技者を「選手」として使い分けることもある。
4	Athlete with a visual impairment/blind	視覚障がいのあるアスリート	「visual impairment(視覚障がい)」は視力や視野が制限される障がいを示すが、特に全盲のアスリートのことを「blind」と称する。
5	athlete with high support needs	特別な支援を必要とするアスリート	以前は「athlete with a severe disability(重度障がいのある選手)」と呼ばれていたが、2007年に「Athlete with a Severe Disability Committee(重度障がいのある選手のための委員会)」が「Athlete with High Support Needs(特別な支援を必要とするアスリートのための委員会)」に名称変更を行い、同時にアスリートについても「athlete with high support needs(特別な支援を必要とするアスリート)」と呼ぶことになった。
6	bipartite	バイパルタイト(救済枠)	重度障がいのあるアスリートや女子の競技・種目の競技成立に必要な競技者を確保するため、および特別な理由により実力のあるアスリートが通常の方法で出場資格を得られなかった場合、特定の競技・種目に対する特定のアスリートを指名するかたちで附与される出場枠のこと。NPCからの要望に基づき、IPCとIFとで構成されるBipartite Commission(バイパルタイト委員会)が該当選手を指名する。正式名称は「Bipartite invitaion」であり、アテネ大会までは「Sport-Specific Wild Cards」と呼ばれていた方法。
7	blackened goggles	黒塗りしたゴーグル	水泳、ゴールボール、5人制サッカー、アルペンスキーなど、視覚障がい者の競技やクラスにおいて着用が義務付けられている場合がある。
8	boosting	ブースティング	自律神経異常反射を意図的に起こさせること。頸髄や胸髄に損傷を有する人は、自律神経異常反射と呼ばれる交感神経の異常な反射が起こることがある。この反射は下半身への痛みを伴う刺激、特に膀胱の膨満や刺激によって起こされ、その症状は、血圧の急激な上昇、頭痛、発汗、皮膚の出血斑、鳥肌など。重篤な場合には、錯乱、脳出血および死にいたる場合もある。この異常反射は、突発的に起こることもあるが、意図的に引き起こされることもある(ブースティグ)。これは健康上危険であるためIPCは異常反射の状態での競技への出場を禁止している。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
9	Chef de Mission Seminar Chef de Mission Meeting	団長セミナー 団長会議	団長セミナーは、総合大会約1年前に、各国の団長および事務責任者のために行われる会議のこと。主な議題は大会の進捗状況やエントリー手続き等についての情報共有。 団長会議は、選手村入村後の指定日に各国選手団長を集めて行われる会議のこと。団長からは大会全般にわたる問題点や疑問点が提示され、主催者側からは解決のための対策や最新情報が提供される。開閉会式についての説明や退村時の手続き等の説明もこの会議で行われる。
10	Classification intelligence	クラス分け機密情報	IFが入手および使用するクラス分けに関する機密情報。
11	Classification Not Completed (CNC)	クラス分け未完了	アスリート評価が開始されているが、IFが納得するようにアスリート評価が完了していないアスリートに適用される呼称。競技クラスではないため、競技会への参加資格は得られない。
12	Classification Organisation	クラス分け組織	アスリート評価の手順を実施し、競技クラスを割り当て、クラス分けデータを保持するすべての組織。
13	Classifier Certification	クラシフィアの認定	クラシフィアが認定または資格を取得し維持するために必要なクラシフィアとしての適性を満たしていることを、国際競技団体(IF)が評価する際に用いる手順。
14	Classifier Competencies	クラシフィアの適格性	IFが統括する1つまたは複数の競技について、クラシフィアがアスリート評価を実施する上で必要とIFがみならず資格と能力。
15	combined events	コンバインド種目	参加人数の少ない重度障がいのあるアスリートや女子の種目を成立させるために、複数のクラスを統合し1つの種目として行うもの。競技によっては、クラスごとに設定された係数を使用してスコアを算出し順位を決定する場合がある。
16	Continuing Education	継続的教育	自身が統轄する競技のクラシフィアとしての知識と技能を維持または向上させるために、IFが定めた高度な知識と実用的な技能を提供すること。
17	core Paralympic values	パラリンピックの核心的価値	パラリンピックの4つの核心的価値については、IPCハンドブックに記載された内容をもとに、パラリンピックの価値を日本で普及するに際しわかりやすいようにJPCで解釈しなおし、IPCからの承認を得たものを国内での「パラリンピックの4つの価値」として公表している。以下、それぞれの「パラリンピックの価値」について、JPCが公式ウェブサイト内で示している表現を示す。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
17	core Paralympic values	パラリンピックの核心的価値	<p>JPC ○ 勇気:「マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力」 (簡易版:「つらいことやできないかも知れないと思うことから逃げ出さないで立ち向かう力」)</p> <p>IPCハンドブック ○ Courage – Para athletes through their performances showcase to the world what can be achieved when testing your body to its absolute limits. ○ 勇気:パラアスリートは、そのパフォーマンスを通して、肉体的限界に挑むことの素晴らしさを世界に向けて表現する。</p> <p>JPC ○ 強い意志:「困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力」 (簡易版:「あきらめないで、目標に向かって努力し続けられる力」)</p> <p>IPCハンドブック ○ Determination – Para athletes have a unique strength of character that combines mental toughness, physical ability and outstanding agility to produce sporting performances that regularly redefine the boundaries of possibility. ○ 強い意志:パラアスリートは、可能性の限界を塗り替えるほどの精神的な強さ、身体能力、卓越した敏しょう性などから生みだされる比類のない強さを備えている。</p> <p>JPC ○ インスピレーション:「人の心を揺さぶり、駆り立てる力」 (簡易版:「強く気持ちをゆさぶられ、自分も何かに挑戦してみたいと感じさせる力」)</p> <p>IPCハンドブック ○ Inspiration – As role models, Para athletes maximise their abilities, thus empowering and exciting others to participate in sport. ○ インスピレーション:ロールモデルとして、パラアスリートはその能力を最大限に発揮し、見る者を力づけるとともに、スポーツへの参加へとかき立てる。</p> <p>JPC ○ 公平:「多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力」 (簡易版:「一人ひとりの違いを理解して工夫すれば、だれもが自分のベストをつくすことができるチャンスがあることに気付かせる力」)</p> <p>IPCハンドブック ○ Equality – through sport, Para athletes challenge stereotypes and transform attitudes, helping to increase inclusion by breaking down social barriers and discrimination towards people with an impairment. ○ 公平:スポーツを通して、パラアスリートは既成概念に挑み、考え方に変化を与え、障がい者の社会的障壁ならびに差別を打破することでインクルージョンを促進する助けとなる。</p>

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
18	Diagnostic Information	診断情報	出場要件を満たす障がいや潜在的な健康状態が存在するか否かをIFが評価することを可能にする医療記録やその他の文書。
19	diplegia	両まひ	脳性まひにおける両下肢障がいを中心とした類型分類、また体幹、上肢の障がいを有する場合でも両まひに分類される。
20	Eligibility Assessment Committee	出場要件評価委員会	出場要件を満たす障がいが存在するか否かを評価するために設けられる特別機関。
21	Entry Criteria	受講基準	クラシファイアを務めることを希望する人物の専門知識や経験の水準について、IFが定めた基準。例として元アスリートや元コーチ、スポーツ科学者、体育指導者、医療専門家などが考えられ、いずれもアスリート評価の全部または特定部分を実施するのにふさわしい資格と能力が必要である。 クラシファイア養成における各研修の受講基準として使用される用語。
22	Entry-Level Education	入門レベルの教育	IFが統轄する競技のクラシファイアとして働き始めるための、IFが定めた基礎知識と実用的な技能。
23	Evaluation Session	評価セッション	競技に関する障がいの最小基準をアスリートが満たしているかを評価し、アスリートが競技の基本となる特定の課題や動作を遂行できる程度に応じて競技クラスと競技クラスステータスを割り当てる目的で、アスリートがクラス分けパネルの評価を受けるために出席することを求められるセッション。評価セッションに競技観察が含まれることがある。
24	First Appearance	ファーストアピアランス	国際競技団体の定める、クラス分け評価後最初に出場する種目の要件。
25	games / sport / discipline / event	競技大会／競技／種目	gamesはパラリンピックなどの「競技大会」を表し、総合競技大会であるため複数形となる。 sportは陸上競技や水泳などの「競技」を表す。 disciplineとeventは日本語ではどちらも「種目」と訳すが、disciplineは「100m走」「平泳ぎ」「走高跳」といった大きなまとまりでの種目を、eventは性別、クラス別の「男子T54 100m走」「女子S1 50m平泳ぎ」といったメダルに対応する種目を表す。なお、eventは、文脈によっては競技大会つまり「イベント」そのものを表すので注意が必要。
26	Goldmann perimetry	ゴールドマン視野計測(法)、視野測定(法)(GP)	動的視野計のひとつであり、ロービジョン者の視野測定に優れている。
27	Humphrey Field Analyzer	ハンフリー視野計(HF, HFA)	静的視野検査のひとつであり、自動視野計の代表格である。ゴールドマン視野計よりは備えている眼科も多いが、ロービジョン者の視機能によっては検査自体を行うのが難しいこともあり、その場合にはゴールドマン視野計での検査が必要になる。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
28	ICC	国際調整委員会	<p>もともとはオリンピック年に開催される国際ストーク・マンデビル車いす競技大会を「パラリンピック」と呼んだのがパラリンピック競技大会の起源であるが、1976年のトロント大会に視覚障がいと切断の選手が参加したことをきっかけとして、車いす以外の障がいのある選手がパラリンピックに参加するようになってきた。このため各IOSDからの声を取りまとめ、IOCとより効果的な話し合いを行うために、「国際調整委員会 (International Co-ordination Committee of World Sports Organizations for the Disabled : ICC)」が1982年に設立された。しかし、IOSDはそれぞれの立場を主張し、パラリンピック大会を取りまとめるための専門的・効果的な討論ができなかったため、ICCに代わりパラリンピック大会を民主的な構成で取りまとめる組織として、1989年にIPCが設立された。</p>
29	IF sport IOSD sport IPC Sport (World Para sport)	IF競技 IOSD競技 IPCスポーツ(ワールドパラスポーツ)	<p>競技ごとの国際統轄組織には、オリンピック競技と同じIFが統轄している競技、オリンピックとは別のパラスポーツのIFが統轄している競技、IPCが統轄している競技、およびIOSDが統轄している競技に分類できる。(資料編参照)</p> <p>2018年3月現在IPCは10競技のIFとしての役割があるが、IPCがIFを務める競技の総称として従来は「IPCスポーツ」、各競技の呼称として「IPC【競技名】」が使用されてきた。しかし2015年末より、「World Para Sport」(ワールドパラスポーツ)が総称として使用されることとなり、それぞれのIFの名称として使用する場合は、「World Para【Sport】」「世界パラ【競技名】連盟」と称することとなっている。</p>
30	inclusion	インクルージョン	<p>コミュニティにおいて、さまざまな相違があることを認め、お互いに影響を与えあって、一つのコミュニティを形成していくこと。IPCハンドブックには「多様性とインクルージョンに関するIPC方針」という章がある。</p>
31	intentional misrepresentation	意図的不実表示	<p>アスリート評価の過程において、アスリートがクラス分けパネルをあざむく行為を企図すること。意図的不実行表示を犯したとみなされた場合、暫定的資格停止を含む懲罰の対象となる。</p>
32	International Blind Sports Federation	国際視覚障がい者スポーツ連盟 (IBSA)	<p>視覚障がい者のスポーツを統括する国際組織。かつてはInternational Blind Sports Associationであったが名称変更により、International Blind Sports Federationとなった。ただし略号はIBSAのまま。</p>
33	International Marketing Programme (IMP)	国際マーケティングプログラム (IMP)	<p>IPCが従うべきマーケティング活動のための条件およびIPCのスポンサーシップ、その他資金集めのための活動やプログラムを保護するための条件を定めるプログラム。</p>

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
34	(IPC)IOSDs' Council (IPC)Regions' Council (IPC)Sports' Council	IPC IOSD評議会 IPC 地域評議会 IPC 競技評議会	従来、地域評議会、競技評議会、IOSD評議会、アスリート評議会の4つの評議会がIPC内に設置されていたが、それぞれの役割の変化とともに、アスリート評議会を除く3つの評議会については評議会をいったん解散し、それに代わる別の機構としてそれぞれの活動を行うこととなっている。2018年現在、新しい機構についてそれぞれがIPCと検討し活動を行っている。
35	IPC member	IPC加盟団体	IPCでは「member」は加盟団体のことを指す。一方でIOCにおける「(IOC) member」とは「(IOC) 委員」を指すため注意。
36	isopter	等感度線、イソプタ	ゴールドマン視野計で測定する際に、光の大きさと強さによって視標が複数ある。そのなかでも、クラス分けではIII/4eという視標での視野範囲でクラスが決められるため、留意しておきたい。ちなみに、一般的に国内での眼科ではIII/4e視標での測定は行わないため、必ずIII/4e視標での測定を眼科でリクエストする必要がある。
37	logarithmic Minimun Angle of Resolution	ログマー視力 (logMAR)	一般的に用いられている小数視力との関係は、「 $\log\text{MAR}=\log_{10}\text{視角}=\log_{10}(1/\text{小数視力})$ 」となる。視力を定量的に評価するのみ優れており、クラス分けの際にはログマー視力で判定を行う。
38	Maintaining Certification	認定維持	クラシファイアの適格性を維持するために必要な、高度な養成、教育および実践を行うこと
39	Medical Diagnostics Form	医学的診断書	国際クラス分けを受ける際に必須の医学診断書である。記入にあたっての特別な資格は不要であり、医師であれば誰でも記入可能である。すべて英文で記載する。有効期限があるため、期限が切れた場合には再作する必要がある。競技によってMDFフォームが異なるため留意が必要である。
40	Medical Review Request	医学的再検査の申し立て	医学的再検査を求めてアスリートに代わってNFまたはNPCが行う申し立て
41	Minimum Impairment Criterion / Minimum Impairment Criteria	障がいの最小基準	アスリートが競技への出場資格を得るための判断基準として設定された障がいの程度に対する基準。アスリートの障がいが、競技パフォーマンスに影響を与えると判断するための最小限度の程度を決定している。
42	multi-sports / multi-impairments	複数競技、複数障がい	大会において、実施競技が陸上競技、水泳、自転車といったように2競技以上対象になる場合は総称してmulti-sports(複数競技)、視覚障がい、切断、車いすといった障がいが2種類以上対象となる場合には総称してmulti-impairments(複数障がい)という。一方で、単独の競技を対象とする場合にはsingle-sport、1種類のみの障がいを対象とする場合にはsingle-impairmentという。ただし、もともとひとつのクラスの中に複数の障害が混在する水泳での「multi-impaiements event」は、様々なクラスのアスリートが同一の種目で競技を行い、世界記録等を参考に作られた公式にあてはめて計算されたポイントによって勝敗を競う(通常パラリンピックではこの方式は実施されない)。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
43	National body	各国競技統括組織	クラス分け規程における「national body(各国競技統括組織)」は、IFに加盟している各国競技団体(NF)を指す。これはワールドパラスポーツ(旧IPCスポーツ)へはNPCが、IOSD競技にはNPCまたは障がい別の各国統轄組織が加盟しているため、混乱を防ぐ目的で別の呼称としたことによる。
44	National Laws	国内法	クラス分け組織に適用される、データ保護とプライバシーに関する国内の法律、規約、および方針
45	National Protest	各国による抗議	NFまたはNPCが自身が管轄するアスリートに関して行う、アスリート評価の結果に対する異議申し立て。国内での抗議の意味ではないので注意。
46	Octopus	オクトパス視野計	静的視野検査のひとつであり、ハンフリー視野計と並んで自動視野計の代表格である。ゴールドマン視野計よりは備えている眼科も多いが、ロービジョン者の視機能によっては検査自体を行うのが難しいこともあり、その場合にはゴールドマン視野計での検査が必要になる。
47	official	役員	選手団では監督やコーチ、総務員など、選手以外のサポートスタッフを指す。また「Swimming Officials」のように前に競技名がついた場合には、「水泳競技役員」のように「競技役員」を指す。
48	Paralympic athlete Para athlete	パラリンピックアスリート パラアスリート	「パラリンピックアスリート」は「パラリンピアン」と同義で、パラリンピック競技大会に出場した経験のあるアスリートのことを指す。「パラアスリート」はパラリンピック競技大会への参加の有無に関わらず、障がいのあるアスリート全般について用いられる。
49	Paralympic Family	パラリンピックファミリー	IPCやIOSD、IFやNPCなど、IPC関係者の総称のこと。パラリンピック関係者の家族のことではない。
50	paralysis	まひ	主に運動まひ。
51	paraplegia	対まひ	脊髄損傷による下肢・体幹障がいと上肢の障がいとを有する頸髄損傷quadriplegiaとは区別される。水泳や陸上競技のクラス分けにおいては脊髄損傷をさす。
52	Protested Athlete	抗議対象のアスリート	競技クラスについて異議申し立てが行われているアスリート。
53	Protested Decision	抗議対象の決定	異議申し立てが行われている競技クラスに関する決定。
54	quadriplegia	四肢まひ	頸髄損傷による四肢まひとしても使用されるが、脳性まひによる四肢まひを指すことがあり、両まひ(diplegia)と同様の脳性まひの類型分類として用いられることも多い。水泳のクラス分けにおいては脳性まひによる四肢まひをさすが、陸上競技においては上肢にも障がいのある四肢まひ全般を指すなど競技により異なるため注意が必要。*コラム63(tetraplegia)参照のこと。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
55	recognised International Federations/International Recognised Federations	認定国際競技団体	パラリンピック競技大会では実施されていないが、国際競技団体(IF)としての最低条件を満たし、IPCから認定されている競技団体。 例:7人制サッカー、セーリングのIF等
56	referee	審判長、審判	競技により審判長であったり単なる審判であったりする場合があり、役職や権限が異なるので注意。
57	rod	ロッド	椎体固定術全般の総称、主に脊椎椎体間固定用の金属製支柱のことをさす。
58	Snellen chart	スネレン表	オランダの眼科医スネレンによって考案された視力検査表であり、欧米でよく用いられている。
59	Sport class status	競技クラスステータス	競技者のスポーツクラスの現在のステータスを定めるもの。以下の5つのステータスがある。 Confirmed (C) : Cステータス :クラスが確定された競技者のステータス。IPC/IF公認大会に参加する際、再度クラス分けを受ける必要はないが、抗議があった場合、再度クラス分けを受けなければならない。 Review (R) : Rステータス :IPC/IF公認大会に参加する際、クラス分けを受けなければならない競技者のステータス。 Review with Fixed Review Date (R with FRD) : R (FRD)ステータス :通常、「R2019」のように「R」に固定期間(年)をつけたかたちで表記される。IPC/IF公認大会に参加する際、固定期間前にクラス分けを受ける必要はないが、同期間後はクラス分けを受けなければならない競技者のステータス。 New (N) : Nステータス :国際クラス分けを受けたことがない競技者のステータス。 Not Eligible (NE) : NEステータス :出場資格のある障がいに至らない健康状態であったり出場資格のある障がいではない障がいがあるために、競技者が競技の障がいの最小基準を満たしていないとクラス分けパネルが判断した競技者のためのステータス。
60	stakeholders	IPC加盟団体	NPC(各国パラリンピック委員会)やIOSDなど、投票権をもつ加盟団体のこと。文脈によっては選手や役員、メディアやスポンサー等を含む場合もある。
61	starting block	スターティングブロック、スタート台、発走台	陸上競技では短距離走でクラウチングスタートを行う際に用いられる器具をさす。自転車競技ではトラックレースでスタートを行う際に自転車を固定するための器具をさす。水泳では飛び込みのためのスタート台をさす。
62	tetraplegia	四肢まひ	頸髄損傷による上下肢・体幹障害で胸腰髄損傷による対まひ paraplegia とは区別される。Quadriplegiaと同義として使用されることがあるが脳性まひによる四肢まひと区別する目的で使用されることもある。水泳のクラス分けにおいては頸髄損傷による四肢まひをさすが、頸髄損傷者を「tetraplegia」とは称さない競技もあるので注意が必要。*コラム55(「quadriplegia」)参照のこと

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
63	The Berkeley Rudimentary Vision Test	バークレールディメンタリー視力チャート (BRVT)	アメリカ、カリフォルニア大学バークレー校のオプトメトリストであるイアン・ベイリーによって考案されたロービジョン者向けの視力表である。BRVTでは、ログマー視力を測定する。現在、クラス分けの際に使用される視力表である。
64	The International Federation for Athletes with Intellectual Impairments (INAS)	国際知的障がい者スポーツ連盟 (INAS)	知的障がいのあるアスリートのための国際統轄組織として、1986年にINAS-FMH(International Association of Sports for Mentally Handicapped)が設立された。その後1991年にINAS-FID(International Sports Federation for Persons with Intellectual Disability)に改名された後、「INAS」を正式名称として採用。「Inas」への変更を経て現在は再度「INAS」を正式名称としている。時代によって組織名称の表記が異なるため注意が必要。
65	Three Agitos	スリーアギトス	赤、青、緑の要素から構成されるパラリンピックシンボル。この要素となる3色は、世界の国旗で最も多く使用されている色である(地の白色を加えて4色とする場合もある)。「アギト」は、ラテン語で「私は動く」の意味。
66	Tracking Code Observation Assessment (OA)	追跡コードの観察的評価 (OA)	競技観察が完了するまで、アスリートの競技クラスステータスの代わりに適用される呼称。
67	Tumbling E	タンブリングE	視標のひとつであり、アルファベットのEの形をしていて切れ目を答えてもらう。ちなみに、BRVTではタンブリングEが視標となっている。日本で一般的に用いられている視標は、アルファベットのCの形をしているランドルト環が多い。
68	Underlying Health Condition	潜在的な健康状態	出場要件を満たす障がいに至る可能性がある健康状態。
69	Universality Wild Card(UWC)	ユニバーサリティ ワイルドカード (UWC)	パラリンピックの出場資格枠を競技成績で獲得することができなかったか、1名のみの選手枠しか得られなかったNPCに対して附与される出場者枠のこと。
70	Village Plaza International Zone	ビレッジプラザ インターナショナルゾーン	選手村入り口から、居住区に至るまでの区域。公式グッズショップや銀行、郵便局、カフェ等があり、選手村のゲストパス保有者が単独でも行動でき、メディアが取材を行うことが可能な区域。2008年の北京大会までは「インターナショナルゾーン」と呼ばれていたが、2010年のバンクーバー大会から「ビレッジプラザ」と名称が変更された。
71	Vision	ビジョン	原文: To enable Para athletes to achieve sporting excellence and inspire and excite the world 和訳: パラアスリートが、スポーツにおける卓越した能力を発揮し、世界に刺激を与え興奮させることを可能にすること
72	withdrawal / DNS / DNF	棄権	withdrawalはエントリー後スタートリスト発表までの間に棄権すること(競技者名はスタートリストに含まれない)。DNSはスタートリスト発表後、競技開始までに棄権すること(競技者名はスタートリストに含まれるがリザルトにはDNSと表記される)。DNFはスタート後、フィニッシュするまでの間に棄権すること(競技者名はスタートリストには含まれるが、リザルトにはDNFと表記される)。

コラム(解説)

No	用語	和訳	解説
73	World Para 【Sport】 Forum (旧) IPC Sport Forum	世界パラ【競技名】フォーラム (旧)IPCスポーツフォーラム	ワールドパラスポーツにおいて、2年に一度開催される競技ごとの総会。各競技の世界選手権大会時に実施されることが多い。
74	World Para 【Sport】STC Chairperson) (旧)IPC STC Chairperson	World Para【競技名】技術委員長 (旧)IPC【競技名】技術委員長	各ワールドパラスポーツ技術委員会の委員長。文章中ではChairperson of World Para 【sport】の形で使われることが多い。